

《以前に帝王切開を受けた患者様へ》

帝王切開でお産をすると、次の妊娠で子宮の筋肉が破裂したり、あるいは、陣痛が発来しにくいといった問題が起こる事があります。

したがって、以前に帝王切開を受けた方の次の分娩様式をどうするか(経膣分娩か帝王切開か)という選択は、産科学の大きなテーマのひとつです。どちらの分娩様式にも危険が伴います。

《帝王切開後の経膣分娩における危険性》

今回の陣痛により、前回手術をした子宮の切開部分の傷がさける「子宮破裂」という状態になる事があります。

その前兆として、創部に限局した痛みを伴う場合もありますが、まれに何の症状もなく子宮が裂け、分娩後にそれが発見され、開腹手術で子宮を摘出する事があります。子宮破裂が疑われた時は、帝王切開を行います。胎児にとっては致命的で、母体にとっても非常に危険です。

《帝王切開についての危険性》

初回の手術に比べ、術中の出血量が多くなったり、傷の治りも悪い場合があります。そのために輸血が必要になったり、場合によっては、子宮を摘出しなければならなくなることも稀にあります。

また、開腹手術は、腸などの癒着の原因となり、腸閉塞を引き起こす事があります。そのためにも帝王切開を何度も行う事は、避けるべきです。

個人差はありますが、一般的に帝王切開は3回くらいまでが限界と考えられています。

《当院の方針について》

分娩方法については、前回帝王切開になった理由・経過、また、前回の切開部の子宮壁の厚さ、骨盤の大きさ・形、胎児の大きさ等を検討し、総合的に判断します。

経膣分娩が非常に危険で好ましくないと思われた場合は、最初から、帝王切開を行う事を検討します。

経膣分娩を行う場合でも、分娩開始後の経過に異常がある場合は、帝王切開に変更する事があります。

ご自分でも何らかの異常を感じたら、クリニックにご連絡下さい。

前回の帝王切開手術が、未熟児などで特殊な術式であった方、術後の経過が順調ではなかった方等は、慎重な検討が必要となりますので、必ずお申し出下さい。



たなべクリニック
さんかふじんか